

# 普及課だより

## 2024.10月号 No.65

〒440-0806 豊橋市八町通5丁目4(東三河総合庁舎4階)

TEL : (0532)35-6550~6554 FAX : (0532)57-5070

E-mail:higashimikawa-fukyu@pref.aichi.lg.jp

Web 下記ページで農業改良普及課を Click

https://www.pref.aichi.jp/soshiki/higashimikawa-nourin/

東三河農林水産事務所農業改良普及課  
(東三河農業普及指導センター)

### 新しい技術の紹介

#### 天敵タバコカスミカメによるナスの害虫防除

J A豊橋茄子部会では、アザミウマ類及びコナジラミ類の薬剤感受性の低下が問題となり、生産者23名が令和4年度から土着天敵「タバコカスミカメ(以下、天敵)」を活用した防除に取り組みました。増殖ハウスで天敵のエサ植物「クレオメ」を栽培、1千頭/10aの天敵を放飼し、84千頭(目標52千頭)の天敵を増殖できました。また、ナス栽培ほ場で両害虫の防除効果を検証した結果、天敵の定着により、春先に両害虫の発生が抑えられました。化学合成農薬の削減効果を検証した結果、慣行防除に比べて、各ほ場平均で、殺虫剤使用回数が47%、農薬費が55%削減できました。



天敵エサ植物のクレオメ

#### 緑肥を活用したキャベツの低コスト施肥体系

緑肥作物ソルゴーは肥料成分であるカリウムを保持する機能が明らかになっています。肥料価格が高騰する中、ソルゴーを作付けし「土づくり」と「コスト削減」が可能な施肥体系を実証しました。

ソルゴーをすき込むことで必要なカリウムがキャベツに供給され、施肥にL型肥料を用いても慣行と同等の生育・収量となりました。また慣行施肥と比較し約13%の肥料代削減効果が見込まれます。

表 キャベツの低コスト施肥体系		10aあたり袋数			
肥料名	全量	元肥	追肥1	追肥2	追肥3
B B L型 元肥みどり	9	4	3	2	
B B L型 追肥みどり	2				2

#### スプレーギクの自走式防除機を用いた高温対策技術

J Aひまわりスプレーマム部会では、近年の夏季の高温による開花遅延やがく焼けが問題となっています。こうした中、令和5年度に部会員の約7割が導入している自走式防除機を利用した葉水処理による高温対策技術の現地実証に取り組みました。その結果、①開花遅延の防止、②がく焼けの防止、③開花揃いの良化、以上3つの効果が明らかになりました。令和6年度は、さらに効果が高まる時間帯や処理回数を検討しています。



自走式防除機による葉水処理

#### ドローンによるカンキツの薬剤防除

J A蒲郡市は、カンキツほ場でドローンによる薬剤散布を開始しました。夏季の露地カンキツの防除は、ハウスミカンの収穫繁忙期と重なることに加え、高温下での作業となるため、肉体的負担が大きいことが問題です。そのため、ドローンによる薬剤散布で省力化を図ることにより、ミカン農家の労働軽減が期待されます。

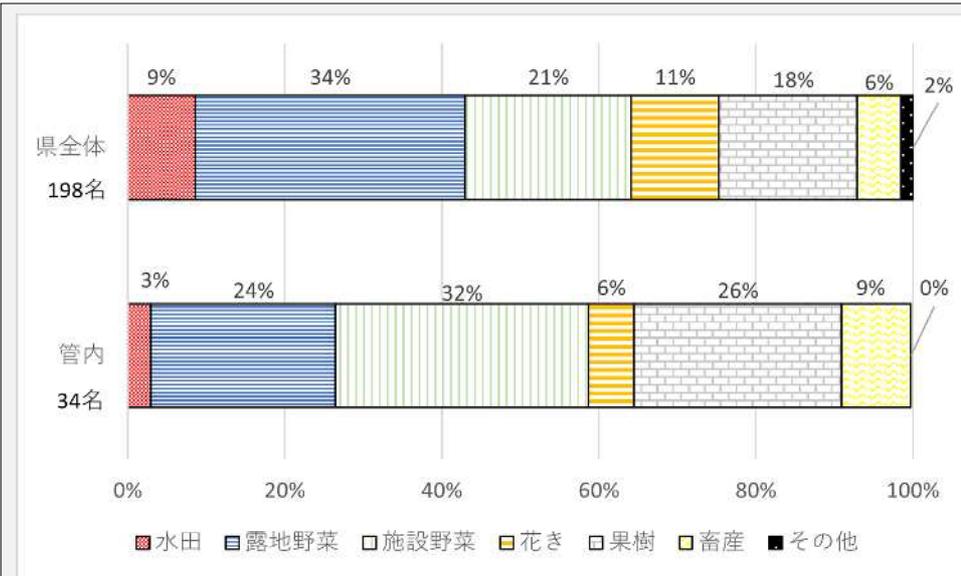
令和6年度は、ハウスミカン栽培者及び大規模農家を対象として取り組みました。ドローンの機体はDJI社製

「T25」(最大容量20L)を使用し、8月は15名のほ場約5haを1日で終了することができました。



ドローンによる薬剤散布

## 令和6年度の新規就農者数



管内3市（豊橋市、豊川市、蒲郡市）の新規就農者数は34名です。部門別で見ると、施設野菜と果樹の2部門で約6割を占めており、県全体と比較して割合が高くなっています。（左図）

就農の経緯は、新規学卒が9%（県全体4%）、Uターン就農が53%（同34%）、新規参入が38%（同62%）です。県全体と比較してUターン就農の割合が高い特徴があります。（データ省略）

## 管内農業の話題

### 麦作後の水田を活用した自給粗飼料づくり（デントコーンの取組）

豊川市では、令和4年から畜産の飼料高騰への対応と水田での収益性の高い作目の導入を目的に、自給粗飼料としてデントコーンサイレージの生産が取り組まれています。令和5年度は麦作後の水田3haで約80tが生産され、120頭規模の酪農家に購入粗飼料の代替えとして、半年分の飼料が確保されました。飼料成分の分析結果が良好であったこと、嗜好性が良いことから、令和6年度は水田6haで160tを目標に拡大し、乳牛への通年給与を目指しています。



デントコーンの収穫

### イチゴ愛知県育成品種「愛きらり®」の本格出荷へ

「愛きらり®」は令和2年度作から現地試験が始められ、品種特性の把握や市場評価の確認を経て、令和6年度作はJA豊橋およびJAひまわりで70名の生産者が11haで栽培しています。

この品種の特性は、早生性で年内の収量が多い、果実が大きく、形が揃っており、糖度は安定して高く、果皮は赤色できらりとした光沢があります。また他の品種よりも花芽分化が早く、年内出荷の増加が期待されます。

「愛きらり®」を愛知のイチゴとしてブランド化するべく、安定出荷に向けた栽培技術の確立に取り組めます。



「愛きらり®」の果実

### ブドウ愛知県育成系統に期待高まる

令和5年度から豊橋市内の無加温ハウスにおいて、愛知県農業総合試験場で育成されたブドウ2系統（系統名：BS-3及びBS-23）が試験的に栽培されています。2系統ともに「シャインマスカット」を親に持ち、糖度が高く皮ごと果実を食べることができます。また、果皮色は赤色で見ても優れています。令和6年は栽培2年目に入り本格的な結実がみられ、特にBS-23は房の形や粒の肥大及び着色が良好で高品質な果実が生産できることが確認できました。ブドウ産地では今後の品種登録と現地普及に期待が高まっています。



新系統BS-23の果実